

こんにちは 青葉のまちセンです



編集・発行 青葉まちづくりセンター
青葉町 3 丁目 (青葉会館内)
8 9 2 - 8 1 7 7 ・ FAX 8 9 2 - 6 6 1 3

まちづくりセンター発の情報紙です。知りたいこと、知らせたいことはありませんか? ご意見・ご感想・投稿大歓迎。よろしくお願いします。

公園での花壇づくり、開始へ

公園の利活用促進を通じ、環境問題を考える機運を広げていこう、という「青葉中央公園ジャック」事業。その第一弾となる「青葉中央公園花いっぱい運動」が、いよいよスタートします。

これは、園内にある花壇スペースなどを使って、地域の皆でガーデニングを楽しもうというもの。今回、参加の呼び掛けに、老人クラブやボランティアグループなど 13 の団体が名乗りを上げました。

4 月 6 日には、豊平公園管理事務所長の涌島(わくしま) 美也子さんを講師に迎え、「花壇づくりのいろは」という講座



専門家の話に「フムフム、なるほど」

を開催。講座では、北国の花づくりについて説明があったほか、国内外における花壇の具体例がスライドで紹介され、参加者は、自分たちがつくる花壇のイメージを膨らませていました。

実際の花壇づくりは、連休明けから徐々に始まる予定です。

リサイクルの現場を視察

3 月 28 日、まちづくり会議環境部会と青葉町自治連合会との共催で、「ゴミの問題を考える見学会」が行われました。



自動車解体はまるで製造ラインの逆送り
この日は、町内会の環境部関係者など 36 人が参加。白石清掃工場のほか、生ゴミリサイクル工場「環生舎(かんせいしゃ)」、自動車処理解体工場の 3 カ所を視察し、ゴミの処理やリサイクルの最新事情を学びました。

環生舎は、食品スーパーから出る野菜

くずなどを発酵させ、肥料化する工場。運営会社の(株)ばんけいリサイクルセンターでは、魚貝などを原料とした肥料と混合し、独自に商品化しています。また、(株)マテックの自動車解体工場では、環境に配慮しつつ、廃車から油脂類や鉛製品を安全に取り除く「適正処理」を実施。再利用できる部品は、リサイクルパーツとして販売もしています。

どの工場も、「廃棄物処理」の古いイメージを感じさせないもので、参加者からは「自動車の解体には、大掛かりなプレス機を想像していた」などと、驚きの声もあがっていました。

「あんしんトラの巻」を配布



ご活用を

まちづくり会議の高齢者部会(小田桐 正座長・左写真)で編集作業を進めてきた「くらしのあんしんトラ

の巻・青葉版」が、このほど完成。現在、自治会・町内会を通じて、青葉地区の全世帯に配布しています。

このパンフレットは、平成 13 年に作成した緊急時の連絡先早見表、「あおばのあんしん」の更新・拡大版。今回は、地域で取り組みを進めている「あたたかな眼差しによる見守りのしくみづくり」についても説明しているほか、災害時の避難場所については、自分で確認しながらシールを張るようになっています。

印刷部数には若干の余裕があります

ので、追加をご希望の方は、青葉まちづくりセンターへご連絡ください。

どこが謎か?

シリーズ・まちセンの謎

まちセンに新しい顔が

4月から、まちづくりセンターにも新しい職員が仲間入りしました。黒子の後任となる地区連絡員、加賀 いづみ(下の写真中央)です。先月までは、民間の建設会社に勤務していました。

大学での専攻は土木工学、というまちセンでは異色の存在。会館の建て替えにも、強力な助っ人となるのでは...と、技術系はまるでダメな所長(同左)が、勝手に期待しているとか。2年目となる川原(同右)も加え、今年はこの3人でまちセンを運営していきます。ぜひ、お引き立てのほどを。

なお、前任の黒子も、新しい職場で元気ががんばっています。



まちセンスタッフはこんな顔ぶれです

【所長のひとり言】

パンが好きでたまりません。毎週末は究極の食パンを求め、近郊を走り回っています。が、10回連続(3日強)パン食という暴挙に至っては、さすがに家族もあきれ顔。それにしても、なぜ青葉町にパン屋がないのでしょうか? どなたか開いてくれませんか?(薮)